

令和元年度第1回秋田市社会福祉審議会児童専門分科会  
(秋田市子ども・子育て会議) 会議録

1 日時 令和元年5月31日(金) 午後3時00分～午後4時50分

2 場所 秋田市役所 5階 正庁

3 出席者

(1) 委員(10人)

奥山順子会長、伊藤由香里委員、佐々木亮次委員、澤口勇人委員、  
鶴田悦子委員、中川聖子委員、廣嶋禮治委員、古田由美子委員、  
山崎純委員、渡辺丈夫委員

(2) 事務局

子ども総務課長(佐々木良幸)、子ども育成課長(夏井保)、  
施設指導室長(脇坂正憲)、子ども健康課長(加賀谷洋子)、  
子ども未来センター所長(新田目剛)、ほか関係職員

4 傍聴者 2人

5 会議の内容

○開会

○新任委員紹介

○副会長選出

○議事

(1) 第二次秋田市子ども・子育て未来プランの進捗状況について

(2) 子ども・子育て支援に関するニーズ調査の結果概要について

(3) 「(仮称)第3次秋田市子ども・子育て未来プラン」策定に向けた考え方について

○閉会

6 議事要旨

○奥山順子会長

それでは、議事の(1)「第二次秋田市子ども・子育て未来プランの進捗状況等について」事務局より説明をお願いします。

【事務局説明】

○奥山順子会長

ただいまの説明に対して、質問や意見はあるか。

○渡辺丈夫委員

P 3の「一時預かり事業」について、2号認定は対象外ではないか。

○事務局

表記上、月16日以上の利用を2号と区分しているものである。

○奥山順子会長

利用実績によって、区分しているということか。

○事務局

そのとおりである。

○渡辺丈夫委員

私立幼稚園の預かり保育の利用児童数は統計上どこにも出ていないのか。

○事務局

従来型については、含まれていない。

○澤口勇人委員

P17「子どもを守る地域ネットワーク強化事業（要保護児童対策地域協議会）」について、児童虐待に対しては、会議の回数をこなすだけではなく、子どもの目線に立って、子どもの安全に対してもっと踏み込んだ議論を行って行かなければいけないと思う。

○事務局

会議では、より情報共有を図っていくほか、児童相談所の意見なども用いていく。また、子ども・子育て会議においても他分野の委員からの意見等頂戴したいと考えている。

○澤口勇人委員

P18「公立保育所障がい児保育事業」「私立保育所等障がい児保育事業」について、障がい児を預かるには、それぞれの園でも受け入れ体制に限度がある。すべての障がい児が事業を利用できるよう踏み込んだ施策を行って欲しい。

○事務局

障がい児が年々増えていることや、受け入れ体制など実態は把握している。これから検討を進めて利用しやすくなるよう努める。

○奥山順子会長

障がい児の実情把握も行ってほしい。

○事務局

庁内の横の連携なども用いて、把握に努めていく。

○古田由美子委員

ある保護者は、子どもが生まれる前に、保育園が内定していた。生まれた子が障がい児であり、保育園から難色を示されたそうだ。そのまま入園できるということでしょうか。

○事務局

内定している場合でも、障がい児の場合には、受け入れ体制など園や保護者との話し合いで決定しているところである。

○澤口勇人委員

障がい児の受け入れについては、その園の定員や加配などの状況によるということが、現実である。

○奥山順子会長

受け入れの可否については、園だけで判断せず、行政へ相談するなど対応して欲しいと思う。

○事務局

園などとも協議しながらできるだけ受け入れられるよう、引き続き努めていく。

○山崎純委員

P 1 「保育士人材確保推進事業」について、量の確保だけではなく、質の確保における事業や幼児教育アドバイザーについても検討していただきたい。

P 12 「街頭巡回指導」の、巡回指導の実態についてお知らせいただきたい。

P 13 「父親の育児参加の啓発」について、イクメンという言葉が広まる中、パタハラなどの課題もあるため、男性育児の意味と意義について啓発という面でも改めて考えていただきたい。

P 17 「ひとり親家庭自立支援事業」について、ひとり親の就業率は一定程度あるものの、総所得が低いということを改善していくことによって、本当の自立支援になるのではないかと。

○事務局

街頭巡回指導については市内9地区で、定例巡回、地区巡回、特別巡回を行っている。指導としては、昨年度は7件でいずれも自転車の無灯火に対する注意である。

父親の育児参加については、親子のふれあい広場の中で父親のベビーマッサージを行う。母親同士の繋がりはずぐできるが、父親同士の繋がり少ないため、そこについての仕掛けもベビーマッサージなどを通して考えていきたい。

○事務局

質の確保については、今までの監査の中でも指摘してきたが、より積極的な研修の受講に加え、自己研鑽についても指導していく。また、保育士の離職の防止についても重点的に監査していく。

幼児教育アドバイザーは、現在、施設指導室の職員1名が、幼児教育アドバイザーとして業務にあたっているが、来年度は、専門のアドバイザーをもう1名配置する予定である。

○山崎純委員

幼児教育アドバイザーは何名体制となっているのか。

○事務局

現在1名だが、2名体制となる予定である。

○事務局

保育士の確保については、喫緊の課題であると捉えており、保育協議会等との協議やAターンフェアなどで周知を行うなど、保育士の確保に努めていく。

○渡辺丈夫委員

資料3について、平成30年度の1号認定の実績を見ると、必要利用定員に対し、教育・保育の提供体制に余りが生じている。そこをもっと有効活用していただきたい。

○事務局

保育料無償化の内容も見据えながら検討していく。

○奥山順子会長

それでは、議事の(2)「子ども・子育て支援に関するニーズ調査の結果概要について」事務局より説明をお願いします。

【事務局説明】

○奥山順子会長

ただいまの説明に対して、質問や意見はあるか。

【意見なし】

○奥山順子会長

それでは、次に、議事の(3)「(仮称)第3次秋田市子ども・子育て未来プラン」策定に向けた考え方について事務局より説明をお願いします。

【事務局説明】

○奥山順子会長

ただいまの説明に対して、質問や意見はあるか。

【意見なし】

○奥山順子会長

この機会に何かご発言のある方はいるか。

○澤口勇人委員

少子化が進んでいる中、子どもを生み育てたいと思える環境となるよう、できることは何でもやっていかなければならないと思う。

○山崎純委員

保育の質の確保について、研修の受講や、アドバイザーの配置などにより、保育の質の向上に繋がるということをどのように見ていくのか、今後の取組の評価方法等について検討していただきたい。

○佐々木亮次委員

臨床心理士会では、質の確保のため、5年ごとに資格の更新をするなど行っている。教育の機会を提供することは大事であるため、行政による教育の機会の提供やスーパーバイザー制度の強化などが質の確保につながるのではないかと。

○渡辺丈夫委員

文部科学省では、処遇で質を図っている。保育士・幼稚園教諭の処遇を改善することが質の向上に繋がると思うので、行政として指導をお願いしたい。

○奥山順子会長

ほかにはないか。ないようなので、これをもって議事を終了する。